慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	『改造社印税率の記録』の概要とその意義
Sub Title	
Author	黒田, 俊太郎(Kuroda, Shuntaro)
Publisher	慶應義塾大学国文学研究室
Publication year	2006
Jtitle	三田國文 No.44 (2006. 12) ,p.105- 142
JaLC DOI	10.14991/002.20061200-0105
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00296083-20061200-0105

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

『改造社印税率の記録』の概要とその意義

黒田　俊太郎

近代の出版文化を考察する上で、著作物に対する印税、すなわちその著作物の著作権を保有する著作権者が出版社から受領する著作権使用料を知るということは、ある時代状況下における著作物の売れ行き（見込み）との相対的な問題に接近するひとつの方途であるという意味で、あるいは著作（権）者と出版社との人間関係をも表象するような事項であるという意味で決定的に重要である。

だが、この印税（率）については、浅岡邦雄氏が「籾山書店と作家の印税領収書および契約書」[1]で翻刻紹介したような、俳書堂・籾山書店による出版物に関する「印税領収書」「原稿領収書」「出版に関する契約書」（『明治文藝家原稿料請取書』国立国会図書館蔵）といった例外を除いて、出版社側の内部資料が公にされたことは殆どなかった。そして、そのような事情ゆえに、印税（率）については、著作（権）者や出版関係者などによる回想といった、曖昧でかつ僅かな情報に依拠するしかなかった。殊に、昭和期の印税（率）に関する出版社側の記録が、まとまった形で公開されたことはこれまでに一度もない。

本稿は、そのような昭和期の印税率に関する出版社側の内部資料が発見されたことに伴い、それらを紹介することを目的とする。すなわち、大正・昭和という二〇世紀前半において最も有力な出版社のひとつであった改造社が、昭和一三（一九三八）年から昭和一九（一九四四）年の自発的廃業に至るまで記録し続けた「印税率の記録」（以下、『改造社印税率の記録』）を、翻刻紹介することを中心的な目的とする。そこでまず、当該資料の概要を示し、次に、何人かの文学者の個別の印税率に注目しながら、その動向を分析し、当該資料の意義に触れてみたい。

なお、『改造社印税率の記録』の翻刻は、112頁より、142頁までに掲載した。

一　資料概要

『改造社印税率の記録』は、平成一六（二〇〇四）年に、改造社初代社主・山本実彦氏のご遺族より慶應義塾図書館に寄贈された、膨大な資料態のなかのひとつである。この資料態は、書籍・雑誌の他、営業・経営・出版関係資料、紙型、手紙、原稿類など、内容においては多岐に亘るが、年代的には制限があ

るといえる。すなわち、雑誌『改造』の創刊号が発行された大正八（一九一九）年の改造社発足当時から昭和一〇年代初頭までの資料は、寄贈された資料態には殆ど全く含まれない。その第一の理由としては、大正一二（一九二三）年九月一日の関東大震災が挙げられるであろうが、この震災で改造社は、その社屋と印刷機、八〇万冊の書籍を失ったといい、[2] この段階でそれ以前の資料も焼失したと思われる。震災後から昭和一〇年代初頭までの資料が存在しない理由は不明だが、纏まった形で存在しないという事実からは、昭和一〇年代初頭以後と以前とでは資料の保管場所が異なっていた（より具体的には、昭和一〇年代初頭以後の資料は山本実彦が保管していた）ことが推測される。

そして、『改造社印税率の記録』もまた同様に、改造社が創刊二〇周年を迎えた昭和一三年の二月期分からしか存在しないが、そもそも出版した書籍の印税率を体系的に記録・保存していこうという発想自体がこの頃生じたのではないかと考えられる。というのも、昭和一三年二月期分の記録は、後述するような書式の「記録用紙」に記述されているのではなく、「MEMO」と印字された用紙に書名と印税率だけを記したものが、翌月の昭和一三年三月期分から昭和一九年七月の自発的廃業直前の五月期分まで一貫して使用される「記録用紙」の上に貼り付けられているだけであるからで、すなわち、それ以前において印税率に関する記録は、文字通りメモ程度に記録されたに過ぎず、保管に値する物であるとの認識が持たれていなかった可能性がある。

昭和一三年三月期分から使用され始めた「記録用紙」は、縦一五・〇センチ、横二二・八センチ（本欄は縦一一・六センチ、横一九・三センチ）、薄手の藁半紙に謄写版印刷で、縦に「書名」「著者名」「定価」「印税率」の各欄が設けられているが、「定価」の欄には、単位を円と銭とに分割する線がさらに一本引かれている。欄外右下には同じく謄写版印刷で縦に（昭和十　年　月期分）とあり、年月を記入する場所が設けられているが、ここに記入される年月は、同紙に記録されている書籍の発行年月とは厳密に対応してはいない。欄外上部には二箇所の穴がさん孔機（パンチャー）で空けられている。

この記録用紙一枚で一五冊分の記録を記入する容量があるが、昭和一四年六月に一五冊を超える以前においては、毎月一〇冊を超えない水準で推移していることから、当初の思惑では月に一五冊を超えることはないと考えられていたと思われる。むろん、一五冊を超えれば二枚目に記入すればよいのだが、逆に自発的廃業間近（昭和一八年七月以降）になると、一枚に二ヶ月分・三ヶ月分が同時に記入されるという事態も生じている。[3]

いずれにせよ、昭和一三年二月から昭和一九年七月までの六年四ヶ月間分[4]の記録、計七一[5]枚が、一枚のボール紙の後表紙を下敷きにして、年代の古いものから新しいものへと順に重ねられ、欄外上部の二箇所の穴に通された一本の黒い綴紐で綴じられている。この『改造社印税率の記録』には、前表紙や外題はない。

当該資料の特徴をもう少し述べておくと、記録には黒、もし

くは青のインクのペン書きが大半を占めるが、時に鉛筆や赤・青鉛筆が使用される。この記録には会計課の職員が当たったと思われるが、その筆跡には明らかに異なる複数の種類がある。ただし、同じく筆跡から判断するに、主要な記録係は三名おり、昭和一三年二月期分から昭和一四年二月期分まで、昭和一四年三月期分から昭和一八年四月期分まで、昭和一八年五月期分から昭和一九年七月期分まで、という大きく分けて三つの期間にそれぞれ従事している。印税率の欄には、常時ではないが、「山本」の確認印が押捺されている。この確認印には、当初から二種類のものが不規則的に使用されているが、しばしば山本実彦の直筆と思われる署名が行われることもある。

また、昭和一六年一月から同年五月までの短期間ではあるが、著者名と定価の欄の間に、押捺者の頭文字と推測される「春」（あるいは「す」）の確認印が押捺されているが、誰の印か、何の確認のための押捺かといったことは不明である。

その他に特質すべき点としては、昭和一四年六月期分から、印税率以外に単行本の「装幀者名」「装幀料」の記録が開始されていることである。表記の方法はまちまちだが、概ね、その月の単行本の印税率の記録が終わると、続けて行を空けずに、「著者名」「定価」の欄を即席の「装幀者名」「装幀料」の欄として、記入される（「書名」欄には書名が記入される）。時に、単行本の印税率の記録の直後の「書名」欄に「右装幀」と記載され、その下に「装幀者名」「装幀料」を記録するというように、ある単行本の印税率と「装幀者名」「装幀料」とがひとつのユニットを形成している場合もある。いずれにしても、文庫本の印税率の記録の後に「装幀者名」「装幀料」の記録が記載されることはなく、すなわち、ある単行本の印税率と「装幀者名」「装幀料」とを、文庫本の印税率の記録によって分断させないような配慮がなされていたといえる。

装幀料は、「ナシ」という場合を除けば、昭和一四年九月期分に記載のある柴田賢次郎『火線』の装幀者・柿谷萃王子なる人物の二五円が最も安く、昭和一六年八月期分に記載のある森田草平『豊臣秀吉』の装幀者・前田青邨の五〇〇円が最も高いが、七〇円程度が平均的な金額であったらしい。装幀者としては、先の前田青邨のような日本画家は珍しく、多くは佐野繁次郎・中川一政・小杉放庵・岡鹿之助・藤田嗣治などの洋画家が名を連ねている。

なかでも佐野繁次郎（一九〇〇～一九八七）は、累計七回と最も多く当該資料に記載があり、この時期の改造社の装幀に大きく関与していたといえる。佐野は周知のように、横光利一『機械』（白水社、昭和六）の装幀を手がけたことを契機に、書物の装幀や挿絵の描き手として人気を博し、横光の一連の著作の多くの装幀を手がけることとなるが、改造社から出版された『旅愁』（第一・二・三篇）もやはり佐野の手になる。当該資料の範囲内における佐野の初出は、昭和一四年一二月期分の『新日本文学全集』の装幀者としてで、佐野は三〇〇円の装幀料を受領している。ただし、この『新日本文学全集』の装幀が大きな仕事であったことは、その後の佐野の単行本一冊の装幀料が、四冊連続して七〇円であることから推測できる。単行本一冊の装幀料が一〇〇円に引き上げられるのは『旅愁』（第三

篇）の時で、昭和一九年二月期分に記載のある丹羽文雄の『現代史』の際には、一三〇円まで引き上げられることになる。

佐野に次いで多く、当該資料に四回の記載があるのは中川一政（一八九三～一九九一）である。中川のこの四回は、『花と兵隊』『兵隊について』『美しき地図』『幻燈部屋』と、いずれも火野葦平の著作の装幀についてである。ただし、単行本の「装幀者名」「装幀料」の記録が開始される昭和一四年六月期以前に出版されていた、いわゆる〈兵隊三部作〉（『麦と兵隊』『土と兵隊』『花と兵隊』）の前二作の装幀も、当然のことながら中川の手になるので、実数としては佐野の手がけた冊数の近似値に達していたといえる。装幀料に関しては、『花と兵隊』の際に「前回通一〇〇」とあり、その後も一〇〇円を上回ることなく一貫している。

二　印税率

当該資料が網羅している六年余の期間において、単行本の印税率については、全体的な上昇、あるいは下降といった現象は確認できない。すなわち、平均して一割という印税率が持続的に設定されている。ただし、文庫本に関しては、当初ほぼ一律八分で推移するが、次第に一割のものが増えだし、昭和一六年度中盤以降は、ほぼ一律一割の印税率が設定されるような、若干の上昇傾向にあることがわかる。

最低の印税率は、昭和一四年三月期分に記載がある、『世界大衆文学名作選集第一巻　アンクル・トムス・ケビン』の和気津次郎の翻訳に対する六分である。窪田空穂『短歌作法』（昭和一三・一一期分）と萩原井泉水校訂『おらが春・一茶文集』（改造文庫、昭和一四・二期分）との二冊が七分と、次に低い印税率であったが、これら三冊を除いて、八分を下回ったものはない。すなわち、単行本・文庫本の如何を問わず、八分というのが事実上の最低ラインであったといえる。

逆に、最高の印税率は、土居光知『日本語の姿』（昭和一八・六期分）に対する二割である。土居は当時、東北帝国大学法文学部西洋文学第一講座の教授であり、すでに『文学序説』（岩波書店、大正一一）によって全国的に知られた英文学者であったが、二割という印税率は、次に高い印税率である一割五分を大きく上回っており、突出している。改造社はその発足当初、中央公論社が大学教授などの学者に対しては文学者と同等かそれ以下の原稿料しか支払わなかったのに対し、文学者の倍近くの原稿料を支払うこともあったといい[6]、もちろん発足当初と昭和一八年との時間的開きや、原稿料と印税率という質的な差異を踏まえれば一概には比較出来ないが、学者である土居の印税率が高いのも頷ける。とはいえ、学者の中でなぜ土居だけがこのように突出していたかについては不明である。

さて、次に何人かの文学者の印税率の推移を観察することで、印税率を決定する際の改造社の方針を浮上させてみたい。

先に二番目に低い印税率を記録したとして言及した窪田空穂『短歌作法』だが、空穂の自選歌集『改版　槻の木』（改造文庫、昭和一六・九期分）の印税率は、一割とこの時期の平均的な数字である。さらに、昭和一四年一〇月期分から断続的に記載のある、空穂による現代語訳『源氏物語』（改造文庫、一巻

〜八巻）の印税率は、改造文庫としては珍しい一割二分という高い数字を記録している。すなわち、同一の文学者であっても印税率は固定的なわけではなく、個々の出版物の売れ行き見込みが改造社によって査定され、その査定結果に呼応して印税率が流動的に決定されていたのではないかということが見えてくる。同様の流動性が明確に観察できる文学者としては他に高濱虚子がおり、虚子の『俳諧師 續俳諧師』（改造文庫、昭和一四・六期分）の印税率は八分とこの時期の平均的な数字であるが、『ホトトギス雑詠選 春之部』（昭和一三・八期分）から『ホトトギス雑詠選 冬之部』（昭和一八・六期分）にいたるシリーズの印税率は、一割五分と全体でも二番目に高い数字である。もちろん、これほどまで高低差の顕著な文学者はこの二人以外にはいないが、すでに著名で評価の定まった文学者であっても、むしろそれゆえにシビアな査定が行われていたことが伺える。

ただし、火野葦平や石坂洋次郎といった、新進の文学者の印税率の推移を見ていくと、様相はやや異なる。火野は同人雑誌『九州文学』の「糞尿譚」で芥川賞を受賞したものの、応召されて戦地にいたため、その授賞式が戦地で行われたことなどから、すでに少なからぬ注目を集めていたというが、実質的なデビューは『改造』（昭和一三年八月号）に掲載された「麦と兵隊」であった。この「麦と兵隊」は、同年九月に改造社から同名の単行本として刊行され、その発行部数は一二〇万部に達したといわれているが、[7] その印税率は、単行本としては事実上の最低ラインである八分であった。とはいえ、この『麦と兵隊』（定価一円）によって、火野には単純計算で九万六千円もの印税が入ったことになる。

火野はそれ以後も、『土と兵隊』（昭和一三・一一期分）・『海南島記』（昭和一四・五期分）・『花と兵隊』（昭和一四・八期分）を改造社から刊行しているが、『改造社印税率の記録』においてそれらの印税率の欄はなぜか空白などになっており、その詳細は不明である。それが、『河童昇天』（昭和一五・四期分）以降、『兵隊について』（昭和一五・一二期分）・『美しき地図』（昭和一六・八期分）・『幻灯部屋』（昭和一七・四期分）・『兵隊の地図』（昭和一七・九期分）と、たて続けに一割二分という高い印税率を記録していく。これらのことからは、第一に、『土と兵隊』『海南島記』『花と兵隊』の三作の印税率は、『麦と兵隊』の印税率八分から『河童昇天』以後の印税率一割二分へと引き上げられるまでの過渡的時期にあって、一割程度であったことが推測できる。あるいはそのような印税率の引き上げが、その時期に実際には行われていなかったとしても、印税率引き上げに関する交渉が、火野と改造社との間に生じていたと思われる。

また、『河童昇天』以降の五作の印税率が、いずれも一割二分であることからは、火野の著作に対して、先述したような厳密な査定は行われていなかったことが推測される。すなわち、刊行時期がほぼ同じでも、自身の著作の印税率に極端な落差のあった空穂・虚子らの歩合制とは異なり、火野は、自身の作品が一定の部数までは確実に売れるとの信頼を改造社側から獲得したことで、印税率を高い水準で固定的に設定させるような内

容の契約を交わすことが出来たのだと思われる。逆に、「売れる」火野作品を、虚子の『ホトトギス雑詠選』シリーズに対するよう破格の印税を払わずに安定的に入手し、火野を囲い込めるという改造社側のメリットもあったであろう。事実、『麦と兵隊』刊行から改造社が自発的廃業に至るまでの時期に、火野の著作（単行本）は二〇冊刊行されているが、実にその半数近い九冊が改造社から刊行されているのである。

火野と同様に、あるいはしばしばそれ以上の待遇で改造社と契約を交わしたのが石坂洋次郎である。『改造社印税率の記録』は、ベストセラーになったという『若い人』（改造社、前篇・昭和一二・二、続篇・昭和一二・一二）の印税率については期間外で記録はないが、改訂普及版『若い人』（昭和一四・一期分）・改訂普及版『続若い人』（昭和一四・二期分）・『何処へ』（昭和一六・四期分）・『小さな独裁者』（昭和一六・一一期分）の四作に関する記録がある。石坂の印税率の有り様が、『改造社印税率の記録』全体で見ても特異なのは、例えば改訂普及版『若い人』の印税率が、「五万マデ一割二分　五万以上一割五分」となっているように、増刷部数がある一定の数値を超えると、それに連動して印税率も引き上げられるというような、スライド方式が採用されていることである。[8]

この方式は、『小さな独裁者』を除いた三作品に採られているが、これを空穂・虚子らの歩合制と同質のものとすることはやはり出来ないだろう。確かに、これは歩合制のひとつのバージョンといえるものだが、そもそも最初に設定されている印税率が一割二分と高い水準であるのに加え、五万部は売れるということが改造社の側で予期されていたであろうことからも、例えば、恐らくは売れないとの査定が下され、最も低い水準の印税率をつけられてしまった空穂の『短歌作法』のような、消極的な理由によるものとは異質であったといえる。

このように、数名の文学者のものだけであったが、彼らの印税率の推移や契約状況などからは、改造社による印税率決定の際の方針や、改造社と各人との関係性が浮上してきた。また、印税率そのものを見るだけでも、いかなる書き手が、あるいはいかなる出版物が、同時代において渇迎されていたかを考察する上での指標となるであろう。

だが、そうした事柄をより明確な形で提示するためには、発行部数や実際に書き手が受け取った印税との有機的な関係性の中で捕捉し直す必要性があると思われる。今後は、寄贈された資料態に含まれる、そうした資料の翻刻紹介を継続して行き、それらとつき合わせていくことが課題となるであろう。

注

（1）浅岡邦雄「籾山書店と作家の印税領収書および契約書」（『日本出版資料』二〇〇二・八）

（2）松原一枝『改造社と山本実彦』（南方新社、二〇〇〇・四）

（3）昭和一八年七・八月分、昭和一八年九・一〇月分、昭和一八年一二月・昭和一九年一月分、昭和一九年一・二・三月分、昭和一九年四・五月分、がそれぞれ一枚の記録用紙に記入されている。

（4）記録のない月が三回ある。

（5）記録用紙の数。この数に、挿入されたり、貼り付けられたりした

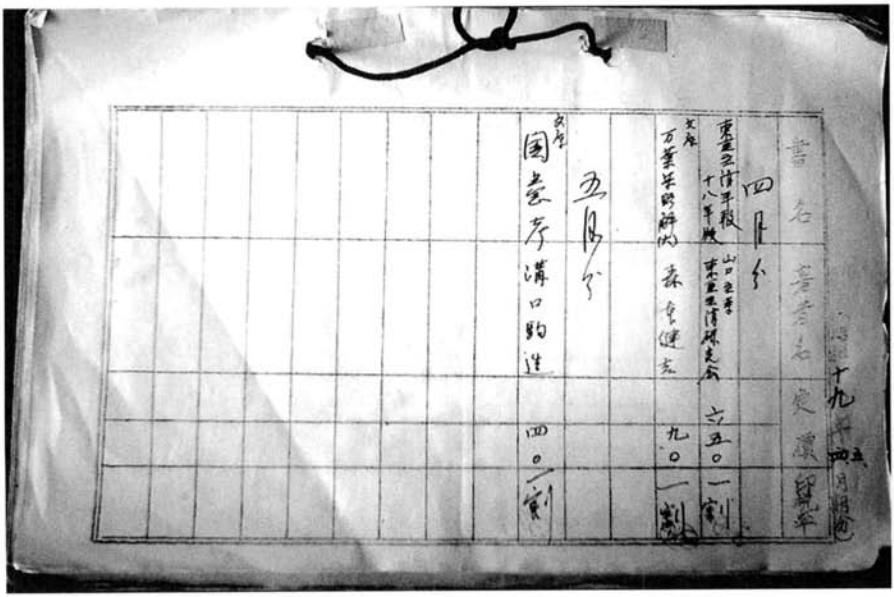
紙片は含まない。ただし、昭和一三年二月期分は、記録用紙に二月期分として貼り付けられていたので、一枚と数えた。

(6) 「大正八年半ばごろの作家の原稿料は『中央公論』の場合、一枚一円乃至一円五十銭、論文・読物の稿料は一円が最高。但し吉野作造の論文稿料は特別で一円五十銭。『改造』の場合、『中央公論』に対する稿料攻勢のため相当上回り、当時の若手作家広津和郎、宇野浩二、葛西善蔵に対して一円八十銭を支払っている。但し『改造』は京都大学開拓のため同大学の二、三の著名教授に対しては三円の稿料を支払っていた。」(木佐木勝『木佐木日記―滝田樗陰とその時代―』図書新聞社、一九六五・一二)

(7) 関忠果・小林英三郎・松浦総三・大悟法進編著『雑誌『改造』の四十年』(光和堂、一九七七・五)

(8) 他に同様のスライド方式が採られているのは、中村敏『満ソ国境紛争史』(昭和一四・八期分)のみである。

*この研究は科学研究費補助金(基盤研究(C)、平成17―20年度、課題番号17520126「改造社を中心とする20世紀日本のジャーナリズムと知的言説をめぐる総合的研究」)の補助を受けている。



50（1・7×5）の誤りか。あるいは、装幀者割引などがあったと考えると、岡鹿之助は『鮨』を二割引で購入していることになる。1・7×0・8×5＝6・80。

＊13 「印税の件

石坂洋次郎著

何処へ　最初の壱萬一割

以上ノモノハ一割二、〜

ノコト

四月十日」との紙片が一枚の貼られており、山本実彦の確認印が二箇所にある。

＊14 「他解説料三十円（竹友藻風）」

＊15 別紙一枚の挿入あり。

「○海螺斎沿海州先占記

・装幀料50・0―

（装幀並ビニ地図・挿絵4葉）

・筆者

間崎日出男（稿者注、以下住所）」

＊16 記載はないが、佐野繁次郎が装幀を行っている。

	萬葉紀行	加藤淘綾	70・0	
	(計2冊)			
19・3				
	古道大意	山本信哉	0・5	10・0
	(計1冊)			
19・4				
	東亜経済年報　昭和十八年版	山口高等東亜経済研究会	6・5	10・0
	萬葉集略解	森本健吉	0・9	10・0
	(計2冊)			
19・5	国意考	溝口駒造	0・4	10・0
	(計1冊)			

＊1 「一万部まで無印税なれど五分に相当額の謝礼を各著者にすること」
＊2 「契約書参照」
＊3 「再版壱割五分　契約書参照」
＊4 「一割松枝　二分周作人」
＊5 「売上ノ定価ノ五分ニ相当額ヲ支払フ」
＊6 「権利支配人へ与りのこと」
＊7 林芙美子の著作は、昭和一四年には改造社から一冊も刊行されていない。『自由花』(杉山平助著) の「装幀者」の欄にその名が記載されていることも不自然である。実際、「印税率」の欄には「？」とあり、記録者自身の困惑の様子が伺える。
＊8 別紙一枚の挿入あり。
「満ソ国境紛争史
出版条件
一、印税　二千部マデ定価の八分、二千部以上一割
一、無印税　4千部 (内拾部著者行キ)」
＊9 「訳者下位氏へハ一割、但し原著者へ五分 (二千部分)」
＊10 「右無印税　五〇部」の書き込みあり。
＊11 昭和一五年五月期分と昭和一五年七月期分との間に挿入された二〇〇字詰「改造社原稿用紙」における記載を、ここでは便宜上昭和一五年六月期分として扱う。ただし、この記載が昭和一五年五月期分、あるいは昭和一五年七月期分である可能性もあるだろう。
＊12 「本代　鮨　アリ　五冊　6・80」とある。『鮨』は定価1・7円なので、8・

18・10				
	世界変革の大戦と海運	平井好一	3・2	10・0
	戦争類型史論	酒井鎬次	4・5	10・0
		装幀者	装幀料	
	世界変革の大戦と海運		ナシ	
	戦争類型史論		ナシ	
	新註八代集抄 (一)古今集上	窪田章一郎	0・8	10・0
	源氏物語（八）	窪田空穂	0・6	12・0 従前通リ
	ユーベルベーク大哲學史十九世紀及び現代篇第二巻	豊川昇	0・7	10・0
	(計5冊)			
18・12				
	國歌八論	土岐善麿	0・6	10・0
	(計1冊)			
19・1				
	バゴボ族覺書	仲原善徳	2・5	10・0
		装幀者	装幀料	
	バゴボ族覺書		ナシ	
	意志と現識としての世界後編第一巻	姉崎正治	0・8	10・0
	(計2冊)			
19・2				
	現代史	丹羽文雄	2・5	10・0
	萬葉紀行	土屋文明	3・5	15・0
		装幀者	装幀料	
	現代史	佐野繁次郎	130・0	1／14服 部印刷支払

	(計2冊)			
18・5				
	報道班員の手記	丹羽文雄	2・0	10・0
		装幀者	装幀料	
	報道班員の手記		ナシ	
	(計1冊)			
18・6				
	ホトトギス雑詠選集　冬の部	高浜虚子	7・5	15・0
	日本語の姿	土居光知	6・0	20・0
		装幀者	装幀料	
	ホトトギス雑詠選集　冬の部		ナシ	
	日本語の姿		ナシ	
	ダーウィン伝	駒井卓	0・9	10・0
	(計3冊)			
18・7				
	旧事記	溝口駒造	0・7	10・0
	狂言不審紙	笹野堅	0・7	三〇〇円
	ユーベルベーク大哲學史	豊川昇	1・0	10・0
	(計3冊)			
18・8	決死潜航十勇士	黒潮会代表村上辰雄	1・5	10・0
	歌舞伎序説	守隨憲治	5・5	10・0
		装幀者	装幀料	
	決死潜航十勇士	廣原長七郎	70・0	
	歌舞伎序説	五十嵐精子	100・0	
	(計2冊)			
18・9				
	ペルー征服 下巻	石田外茂一	0・8	10・0
	(計1冊)			

	大哲学史	豊川昇	0・6	10・0
	生命の科学	石田外茂一	0・5	10・0
	人間主義と浪漫主義	羽白幸雄	0・5	10・0
	(計3冊)			
17・12				
	航空戦の技術	新谷春水	3・8	10・0
	タイ・カンボヂア・ラオス諸王国遍歴記	大岩誠	2・2	10・0
	(計2冊)			
18・1				
	朝鮮経済年報　十六・十七年版	代表 渋谷恒治郎	3・5	10・0
	不動産価格統制の基礎理論	花島得二	3・8	10・0
	(計2冊)			
18・2				
	大いなる朝	吉田絃二郎	1・5	10・0
	旅愁　第三篇	横光利一	2・0	12・0
	栖鳳閑話	竹内逸	2・0	10・0
		装幀者	装幀料	
	大いなる朝		80・0	
	旅愁　第三篇	＊16	100・0	
	栖鳳閑話		ナシ	
	(計3冊)			
18・4				
	フィリッピン読本	奥間徳一	2・0	10・0
	東印度	大江専一	4・5	10・0
		装幀者	装幀料	
	フィリッピン読本	高尾豊	30・0	
	東印度	丸山氏	ナシ	

	大隈言道集	佐佐木信綱	0・7	10・0
	未開社会における犯罪と慣習	青山道夫	0・5	10・0
	(計8冊)			
17・7				
	支那農業経済論　中巻	天野元之助	8・0	10・0
	毀れた甕	福本喜之助	0・4	10・0
	意志と現識としての世界 後編第一巻	姉崎正治	0・5	10・0
	本朝神社考	宮地直一	0・7	10・0
	(計4冊)			
17・8				
	日本民俗学入門	関敬吾	2・5	10・0
	伊沢蘭軒　下巻	森於兎	0・6	8・0
	(計2冊)			
17・9				
	兵隊の地図	火野葦平	1・5	12・0 未定ノコト
	白桜集	与謝野晶子	2・5	10・0
		装幀者	装幀料	
	兵隊の地図	向井潤吉	100・0	
	白桜集		ナシ	
	ニーチェ伝　下巻	野上巌	0・6	10・0
	戦争と平和　第四巻	梅田浩	0・9	10・0
	(計4冊)			
17・10				
	兄ゴッホの思ひ出	近藤孝太郎	0・4	10・0
	世界史の哲学（一）	岡田隆平	0・7	10・0
	(計2冊)			
17・11				

	ハワイ	宮城聡	2・3	10・0
		装幀者	装幀料	
	幻燈部屋	中川一政	100・0	特別謝礼共
	日本と葡萄牙	(社内)		
	ハワイ	柳瀬正夢	30・0	
	胡桃割人形と鼠の王様	佐藤新一	0・4	10・0
	ギャスケル夫人短篇集	田部重治	0・4	10・0
	(計5冊)			
17・5				
	海螺斎沿海州先占記		2・0	10・0 ＊15
		装幀者	装幀料	
			50・0	地図挿絵四葉共
	源氏物語（七）	窪田空穂	0・5	12・0
	(計2冊)			
17・6				
	東亜経済年報　昭和十七年版	東亜経済研究会	3・5	10・0
	空軍・空戦論	原幹二	2・3	10・0
	文学的散歩	宇野浩二	2・3	10・0
	蒙古の理想	米内山庸夫	2・2	10・0
		装幀者	装幀料	
	東亜経済年報　昭和十七年版			
	空軍・空戦論	ナシ		
	文学的散歩	鍋井克之	80・0	
	蒙古の理想			
	打聞集	中島悦次	0・3	10・0
	狐ライネケ物語	舟木重信	0・6	10・0

	(計10冊)			
17・1				
	ペルー征服(上)	石田外茂一	0・7	10・0
	ヘルマンとドロテーア	高橋健二	0・3	10・0
	(計2冊)			
17・2				
	大東亜戦争に直面して	高島正	1・0	10・0
	世界の終わり	庄野満雄	3・2	10・0
	蒙古草原	米内山庸夫	7・0	10・0
		装幀者	装幀料	
	大東亜戦争に直面して			装幀料不要
	世界の終わり	高尾豊	30・0	
	蒙古草原			装幀料不要
	万葉集略解（五）	森本健吉	0・8	10・0
	意志と現識としての世界 後編第一巻	姉崎正治	0・5	10・0 本代アリ
	(計5冊)			
17・3				
	あらすか物語	祥瑞専一	1・4	10・0
	豊臣秀吉（二）	森田草平	3・3	一巻同様
	運命の道	菊池武一	2・0	10・0
		装幀者	装幀料	
	あらすか物語	正木英夫	40・0	
	豊臣秀吉（二）	前田青邨	不要	一巻の際全 三巻分スミ
	運命の道	丸山金治		
	(計3冊)			
17・4				
	幻燈部屋	火野葦平	2・3	12・0
	日本と葡萄牙	日葡協会	0・7	10・0

	思索の道	大竹勝	1・5	10・0
		装幀者	装幀料	
	小さな独裁者	中沢弘光	150・0	
	廃者の花園	坪井甚喜　正木英夫	40・0	
	紫匂ふ	谷口喜作	50・0	
	思索の道	丸山金治		
	(計4冊)			
16・12				
	独逸的人間	小堀甚二	1・4	10・0
	亜成層圏飛行	野村秀夫	2・0	10・0
	葡萄牙のサラザール	柳沢健	1・6	10・0
	満洲経済研究年報	満鉄調査部	2・7	契約書の通り
	アメリカを支配する六十家	和田克巳	2・3	10・0
	北氷洋漂流記	米川正夫	2・3	10・0 上巻に同じ
		装幀者	装幀料	
	独逸的人間	ナシ		
	亜成層圏飛行	ナシ		
	葡萄牙のサラザール	ナシ		
	満洲経済研究年報	ナシ		
	アメリカを支配する六十家	ナシ		
	北氷洋漂流記			上巻と共ニ済
	魯庵随筆集　下巻	内田巌	0・5	8・0
	陸奥宗光伝	渡辺幾治郎	0・7	10・0
	アマゾンの博物学者	大島侃	0・7	10・0
	古事記伝（三）	風巻景次郎	0・6	10・0

16・9				
	ホトトギス雅詠 秋之部	高浜虚子	5・0	15・0
	外科医余禄	柏熊達生	1・8	10・0
		装幀者	装幀料	
	外科医余禄	角浩	40・0	
	新日本文学全集	阿倍知二	1・5	10・0
	武家義理物語	守随憲治	校注料三〇円	買切
	セザンヌ伝	近藤孝太郎	0・5	10・0
	ビーグル号航海記(下)	内山賢次	0・8	10・0
	万葉集略解（四）	森本健吉	0・6	10・0
	改版 槻の木	窪田空穂	0・4	10・0
	天才と創造	三宅賢	0・7	10・0
	(計9冊)			
16・10				
	蘭印の印象	高見順	2・4	10・0
	科学の動員	宮本武之輔	2・2	五〇〇〇迄一・三割、五〇〇〇以上一・五割
		装幀者	装幀料	
	蘭印の印象	三雲祥之助	100・0	
	ベートーヴェン	柿沼太郎	0・4	10・0
	どうしてそんなに物語	石田外茂一	0・5	10・0
	(計4冊)			
16・11				
	小さな独裁者	石坂洋次郎	2・4	12・0
	廃者の花園	海南基忠	2・2	10・0
	紫匂ふ	深田久弥	2・4	10・0

		装幀者	装幀料	
	怒濤	佐野繁次郎	70・0	
	海洋文学全集　第一回第七巻	岡鹿之助	250・0	
	蜻蛉日記(下)	勝俣久作	0・4	10・0
	源氏物語（六）	窪田空穂	0・5	12・0
	修善寺物語	岡本綺堂	0・5	8・0
	（計５冊）			
16・8				
	豊臣秀吉	森田草平	3・3	10・0
	報道戦線	馬淵逸雄	2・5	10・0
	美しき地図	火野葦平	2・3	12・0
	上海風語	内山完造	2・0	10・0
	北氷洋漂流記(上)	米川正夫	2・3	10・0
		装幀者	装幀料	
	豊臣秀吉（一）	表紙扉函 前田青邨	500・0	
	報道戦線	表紙扉 藤田嗣治	100・0	
	美しき地図	表紙扉函 中川一政	100・0	
	上海風語	三雲祥之助	70・0	
	北氷洋漂流記 (上)	表紙扉 山村一平	上下二巻にて40・0	
	義時の最期	河竹繁俊	0・4	10・0
	ビーグル号航海記(上)	内山賢次	0・8	10・0
	福翁百話・百余話	富田正文	0・6	校訂料一〇〇円
	意志と現識としての世界	姉崎正治	0・4	前通り
	（全９冊）			

	ガリヴァー旅行記(上)	町野静雄	0・4	10・0
	(計6冊)			
16・6				
	四ヶ年計画下の独逸鉄鋼業	竹内謙二	2・3	10・0
	独逸労働戦線と産業報国運動	森戸辰男	1・3	10・0
	虚子五百句鑑賞　明治之部	浜中柑児	1・7	10・0
	アメリカを支配する六十家	和田克巳	2・0	10・0
	東亜と世界	蠟山政道	2・3	10・0
	全面和平への路	汪兆銘	1・0	無
		装幀者	装幀料	
	アメリカを支配する六十家	菅能由為子	35・0	
	戦争と平和（三）	梅田寛	0・9	10・0
	ドイツ人の政治的経済的国民統一	正木一夫	0・3	10・0
	ガリヴァー旅行記(下)	町野静雄	0・4	10・0
	意志と現識としての世界	姉崎正治	0・3	10・0
	伊澤蘭軒（中）	森於菟	0・5	8・0
	懐往事談	福地源一郎　柳田泉	0・5	
	ムツソリーニ全集		2・0	下位氏一割二分 他は一割
	(計13冊)			
16・7				
	怒濤	丹羽文雄	2・0	10・0
	海洋文学全集　第一回第七巻	岡本圭次郎	1・8	10・0

	(計6冊)			
16・4				
	天使	内山敏雄	1・1	10・0
	明石海人全集下	内田守	2・2	10・0
	戦争指導の實際	酒井鎬次	4・0	10・0
	何処へ	石坂洋次郎	2・0	一○○○○部一割　一○○○一部一割二分＊13
	新しき支那	横田実	2・3	10・0
	戦争と自由	淡徳次郎	1・8	10・0
		装幀者	装幀料	
	天使	今泉俊次	30・0	
	戦争指導の實際	菅原英？？		
	何処へ	小穴隆一	礼共 100・0	
	何処へ　挿絵	鈴木信太郎	230・0	
	戦争と自由	里見宗次	50・0	
	ユーベルヴェーク大哲学史 古代編（二）	山本光雄	0・4	10・0
	戦争と平和（二）	梅田寛	0・8	10・0
	ゴッケル、ヒンケル、ガッケライア	中村正	0・5	10・0
	(計9冊)			
16・5				
	眉毛眼上集	小泉丹	2・3	10・0
	ある魂の生長(上)	山室静	0・4	10・0
	セワストポリ戦記	上田進	0・5	10・0
	牧羊神	上田悦子	0・5	8・0　＊14
	徳川家康(下)	山路平四郎	0・5	8・0

	ユーベルヴェーク大哲学史 古代編	山本光雄	0・7	10・0
	国文学史	藤岡作太郎	0・7	謝礼
	(計5冊)			
16・2				
	幸福の家	葦田坦	1・6	10・0
	スキーフランセ	松永武夫	2・3	10・0
	新政治体制の原理	内田繁隆	2・5	10・0
	多摩のほとり	吉田絃二郎	1・3	10・0
	栽培植物の起源	加茂儀一	10・0	10・0
		装幀者	装幀料	
	多摩のほとり	恩地孝四郎	50・0	前例
	少女ローレ	塩谷太郎	0・5	10・0
	愛すべき一家	水上斎	0・4	10・0
	蜻蛉日記(上)	勝俣久作	0・4	10・0
	徳川家康(上)	山路平四郎	0・5	8・0
	ゲッツ・フォン・ベルリッヒンゲン	新関良三	0・5	10・0
	三つの宝	芥川比呂志	0・4	10・0
	意志と現識としての世界	姉崎正治	0・4	10・0
	(計12冊)			
16・3				
	鮨	岡本かの子	1・7	10・0
	東亜経済年報　十六年版	山口高商	3・3	10・0
		装幀者	装幀料	
	鮨	岡鹿之助	70・0	＊12
	プーシキン詩抄	上田進	0・5	10・0
	魯庵随筆集(上)	内田巌	0・6	8・0
	名残の星月夜	河竹繁俊	0・3	10・0 前例
	万葉集略解（三）	森本健吉	0・5	10・0 前例

	黎明の人々	大坪草二郎	1・7	10・0
		装幀者	装幀料	
	黎明の人々	江崎孝坪	50・0	
	牧の方	河竹繁俊	0・5	10・0
	海潮音	上田悦子	0・5	8・0
	(計4冊)			
15・12				
	伊太利案内	柏熊達生	1・8	10・0
	沈黙の戦士	小松清	2・0	10・0
	兵隊について	火野葦平	2・0	12・0
	魚介	林芙美子	2・0	10・0
		装幀者	装幀料	
	兵隊について	中川一政		
	魚介	佐野繁次郎	70・0	
	滞仏陣中記	小牧健夫	0・6	10・0
	源氏物語（五）	窪田空穂	0・5	12・0
	万葉集略解（二）	森本健吉	0・5	10・0
	神皇正統記	宮地直一	0・6	10・0
	国民経済学体系(下)	正木一夫	0・6	8・0
	社会学の根本問題	堀真琴	0・3	10・0
	マンフレッド・カイン	岡本成蹊	0・4	10・0
	あるぷす大将	吉川英治	0・7	8・0
	(計12冊)			
16・1				
	外科医の手記	柳田泉	2・2	10・0
	明石海人全集	内田守	2・2	10・0
		装幀者	装幀料	
	外科医の手記	谷中安規	40・0	
	西園寺公望	田中貢太郎	0・5	8・0

	人間の美的教育について	島村教次	0・4	10・0
	老子の研究 巻下	武内義雄	0・4	8・0
	サー・ロジヤ物語	角利一	0・3	10・0
	ボオドレエル伝	斎藤磯雄	0・5	10・0
	古事記伝（二）	風巻景次郎	0・6	10・0
	国民経済学体系 巻上	正木一夫	0・6	8・0
	戦争と平和 一部	梅田寛	0・8	10・0
	精神科学の論理	松浦孝作	0・5	10・0
	(計12冊)			
15・10				
	深見草	岡本一平	2・7	10・0
	続ヴァカボンド通信	坂井米夫	1・8	10・0
	海珠鈔	中山省三郎	2・8	10・0
	世界経済の現勢	満鉄調査部	2・5	？？？四〇〇部
	悲しきいのち	杉山平助	2・0	10・0
	近代欧州史 巻下	菊池守	2・3	10・0
	斯くて独逸は開戦した	佐藤謙三	1・3	10・0
		装幀者	装幀料	
	深見草	仲田菊代	50・0	
	続ヴァカボンド通信	三雲祥之助	50・0	
	海珠鈔	立石鉄臣	50・0	
	二重の誤解	江口清	0・4	10・0
	哲學概説	桑木嚴翼	0・5	8・0
	拾遺愚草（二）	佐佐木信綱	0・5	買切
	伊澤蘭軒(上)	森於菟	0・6	8・0
	(計11冊)			
15・11				
	改訂重商主義経済学説研究	高橋誠一郎	5・0	12・0

15・7				
	旅愁 巻上	横光利一	2・0	10・0
	高千穂峰	斎藤茂吉	2・5	10・0
	アラビアのローレンス	小野忍	2・0	10・0
	支那流浪記	宮崎信彦	1・7	10・0
	雨ぞ降る 巻上	隅田久尾	1・3	10・0
		装幀者	装幀料	
	旅愁（一）	佐野繁次郎	70・0	
	高千穂峰	小杉放庵	100・0	
	アラビアのローレンス	志津国弘	30・0	
	支那流浪記	中山巍	50・0	
	雨ぞ降る 下	伊藤廉	40・0	
	(計5冊)			
15・8				
	雲南四川踏査記	米内山庸夫	3・0	10・0
	旅愁（二）	横光利一	2・0	10・0
	支那農業経済論(上)	天野元之助	8・0	10・0
	故郷失ひぬ	八住利雄	1・8	10・0
	近代欧洲史	菊池守	2・5	10・0
		装幀者	装幀料	
	旅愁（二）	佐野繁次郎	70・0	
	(計5冊)			
15・9				
	十五年版朝鮮経済年報	代表 福井隆一	3・4	10・0
	秋の求婚	杉木喬	1・5	10・0
		装幀者	装幀料	
	秋の求婚	渡辺武夫	40・0	
	悪魔の酒 2部	浜野修	0・5	10・0
	通貨調節論 下巻	阿野季房	0・5	10・0

15・4				
	米国現代史	福田実	1・8	10・0
	河童昇天	火野葦平	2・3	12・0
	支那経済年報	木村増太郎	2・5	10・0
		装幀者	装幀料	
	河童昇天	星野順一	50・0	
	不安の概念	伊藤郷一	0・6	10・0
	(計4冊)			
15・5				
	無雷庵雑記	有馬頼寧	2・2	10・0
	銀河系統	賀川豊彦	1・6	10・0
	山の英雄	葦田坦（大江専一）	1・5	10・0
	続建設戦記	上田廣	1・5	10・0
		装幀者	装幀料	
	無雷庵雑記	加納三楽	70・0	
	山の英雄	宮澤茂吉	30・0	
	銀河系統	朝日カメラより写真拝借謝礼	10・0	
	続建設戦記	無縁寺心澄	60・0	
	近代文学の意味	山室靜	0・4	10・0
	通貨調節論	阿野季房	0・5	10・0
	(計6冊)			
15・6	＊11			
	源氏物語 第四篇	窪田空穂		前同
	万葉集略解（一）	森本健吉		10・0
	科学概論	内山賢次		10・0
	アメリカ文学史要	中柴光泰		10・0
	老子の研究(上)	武内義雄		8・0
	(計5冊)			

	上海夜話	三雲祥之助	40・0	
	雨ぞ降る(上)	伊藤廉	40・0	
	月のある庭	久保田久一	50・0	
	朝鮮慶州の美術	中村亮平	0・6	10・0
	薄命のヂュウド(下)	内多精一	0・5	10・0
	ルーソーと浪漫主義(下)	崔載瑞	0・6	10・0
	自然界における人間の地位	石田外茂一	0・4	10・0
	悪魔の酒(上)	浜野修	0・5	10・0
	渋江抽斎	森於菟	0・6	8・0
	巴里の憂鬱	三好達治	0・3	8・0
	宇治拾遺物語	中島悦次	0・6	一時払
	生々流転	岡本かの子	2・4	10・0
	滞英四十年今昔物語	牧野義雄	2・0	10・0
	世界大戦回顧録	代表内山賢次＊10	2・5	10・0
		装幀者	装幀料	
	生々流転	岡本太郎	50・0	
	其角俳句集	萩原蘿月	0・5	10・0
	源氏物集（三）	窪田空穂	0・5	12・0 同前号
	お絹とその兄弟	佐藤春夫	0・5	8・0
	勝海舟	山路愛山	0・5	8・0
	教養の探究	大竹勝	0・3	10・0
	啄木追懐	土岐善麿	0・6	8・0
	文芸復興	田部重治	0・5	10・0
	うき草	二葉亭四迷（片岡一）	（解説料）	二十五円也
	(世間胸算用)（日本永代蔵）	守随憲治		校註料買切一時払い
	(計25冊)			

	新日本文学全集	佐野繁次郎	300・0	
	薄命のヂュウド(上)	内多精一	0・4	8・0
	ルソーと浪漫主義(上)	崔載瑞	0・6	10・0
	ふりだした雪	久保田万太郎	0・5	8・0
	告白・回想	土井義信	0・4	10・0
	北条霞亭(下)	森於菟	0・5	8・0
	幼年時代(下)	上田進	0・6	10・0
	(計9冊)			
15・2				
	原料争奪の世界戦	下位春吉	1・8	＊9
	人生遍路	吉田絃二郎	1・1	10・0
	あさくさの子供	長谷健	2・0	10・0
	ホトトギス雑詠選	高浜虚子	5・0	15・0
		装幀者	装幀料	
	人生遍路	恩地孝四郎	30・0	『一人行旅』の折と仝額
	あさくさの子供	林鶴雄	70・0	
	薄命のヂュウド中巻	内多精一	0・4	8・0
	ランボオの手紙	祖川孝	0・3	10・0
	頭註其角俳句集	萩原蘿月	0・5	10・0
	(計7冊)			
15・3				
	不動産の評価の理論と実際	花島得二	6・0	10・0
	上海夜話	内山完造	2・0	10・0
	雨ぞ降る(上)	隅田久尾	1・3	10・0
	月のある庭	平林彪吾	2・2	10・0
	一番乗り	伊地知進	1・3	10・0
		装幀者	装幀料	

	襯衣	大久保さわ子	0・3	10・0
	みだれ箱		0・4	
	(計15冊)			
14・11				
	世界の暁	満井佐吉	1・4	10・0
	伽羅山荘随筆	入沢達吉	2・8	15・0
	蒙古風俗誌	高山洋吉	1・5	10・0
	空想家とシナリオ	中野重治	1・7	10・0
	上海ホテル	葦田坦 大江専一	1・7	10・0
	支那経済研究	梨本祐平	4・3	10・0
		装幀者	装幀料	
	蒙古風俗誌	白山道夫	40・0	
	空想家とシナリオ	伊藤廉	60・0	
	上海ホテル	宮澤茂吉	30・0	
	世界の暁	吉田貫三郎	50・0	
	劇作法	末吉寛	0・4	10・0
	源氏物語（二）	窪田空穂	0・5	12・0
	上海	横光利一	0・5	10・0
	龍姿蛇姿	幸田露伴	0・5	8・0
	東遊記	今泉忠義	0・5	校註料一時払
	拾遺愚草	佐佐木信綱	0・5	
	西康・西蔵踏査記	松枝茂夫岡崎俊夫共訳		10・0
	(計13冊)			
14・12				
	西康・西蔵踏査記	代表者岡崎俊夫	1・7	10・0
	内燃機王ディーゼル	川端勇男	2・0	10・0
	新日本文学全集火野葦平集	火野葦平	1・5	
		装幀者	装幀料	

	風物帖	伊東喜朔	50・0	
	火線	柿谷萃王子	25・0	
	無花果の家	福田豊四郎	60・0	
	蒲生氏郷	幸田露伴	0・2	8・0
	化粧と口笛	川端康成	0・5	10・0
	プチ・ブルジョア　上巻	芹沢光治良	0・6	10・0
	ピノチオ	佐藤春夫	0・5	8・0
	劇作法	末吉寛	0・5	10・0
	プチブル　下巻	芹沢光治良	0・4	10・0
	(計10冊)			
14・10				
	大凶の籤	武田麟太郎	2・0	10・0
	禿木随筆	平田禿木	2・0	10・0
	日本、支那、欧米	金内良輔	2・0	10・0
	無花果の家	間宮茂輔	1・8	10・0
		装幀者	装幀料	
	大凶の籤	高岡徳太郎	100・	
	禿木随筆	鈴木信太郎	60・	
	無花果の家	福田豊四郎	60・	
	源氏物語（一）	窪田空穂	0・5	12・0
	北条霞亭	森於菟	0・5	8・0
	トオマス・マン自伝	浜野修	0・2	10・0
	幼年時代(上)	上田進	0・4	10・0
	壺のアリョーシャ	梅田寛	0・5	10・0
	わが毒舌	石川湧	0・5	10・0
	街の風景	杉木喬	0・4	10・0
	ヘンリーライクロフトの手記	谷崎精二	0・5	10・0
	ギヨオテ伝	森於菟	0・7	8・0

	うた日記	森於菟	0・3	8・0
	(計12冊)			
14・8				
	花と兵隊	火野葦平	1・0	
	海人遺稿	明石海人	1・3	10・0
	帰順	上田廣	1・3	10・0
	牛	伊藤永之介	1・5	10・0
	満ソ国境紛争史	中村敏	2・0	2000マデ8% 2000カラ10%　*8
		装幀者	装幀料	
	花と兵隊	中川一政	前回通 —⊖⊖—	
	帰順	無縁寺心澄	前回通 六○—	
	牛	福田豊四郎	50・0	
	人間嫌ひ	吉江喬松	0・5	10・0
	決闘(下)	梅田寛	0・5	10・0
	藏の中	宇野浩二	0・5	8・0
	南蛮更紗	新村出	0・6	8・0
	蒲生氏郷	幸田露伴	0・2	8・0
	母への手紙　下	祖川孝	0・4	10・0
	女身万葉	武田祐吉	2・2	10・0
	(計12冊)			
14・9				
	風雨帖	藤森成吉	2・3	10・0
	火線	柴田賢次郎	1・6	10・0
	無花果の家	間宮茂輔	1・8	10・0
	四股をふむロシヤ	長谷部照	2・0	10・0
		装幀者	装幀料	

	ナチス経済及経済政策	慶応義塾　伊藤岱吉	3・0	10・0
	啄木研究	吉田孤羊	1・8	10・0
	チロル短篇集	浜野修	1・6	10・0
	東京の女性	丹羽文雄	1・7	10・0
	忠烈詩集（坤）	団野宗勝	2・7	10・0
	史論俳句選釈	萩原蘿月	1・7	10・0
	大陸巡遊吟	吉植庄亮	2・0	10・0
	勝者敗者	保高徳蔵	1・6	10・0
	(計18冊)			
		装幀者	装幀料	
	啄木研究	和田喬二	30・0	10・0
	チロル短篇集	橋本三郎	30・0	10・0
	大陸巡遊吟	酒井三良子	ナシ？	10・0
	勝者敗者	関口隆嗣	50・0	10・0
14・7				
	自由花	杉山平助	1・8	10・0
	支那共産軍の現勢	深田悠蔵	2・0	10・0
	支那風土記	米内山庸夫	3・2	10・0
	戦時経済に於ける物価統制と利潤	渡辺佐平	2・2	8・0
	支那の三人姉妹	内山俊雄	0・8	10・0
	三人の特務兵	大江賢次	1・5	10・0
		装幀者	装幀料	
	渦まく支那	小杉放庵	80・0	
	自由花	林芙美子＊7		？
	みだれ髪	与謝野晶子	0・3	8・0
	母への手紙	祖川孝	0・4	10・0
	古事記伝	風巻景次郎	0・6	10・0
	マルサス穀物条例論	鈴木鴻一郎	0・3	8・0

	兵隊とともに	栗林農夫	1・4	10・0
	西蔵探検記	高山洋吉	1・6	10・0
	加藤清正	張赫宙	1・8	10・0
	対支文化工作草案	宇田尚	2・8	10・0
	建設戦記	上田廣	1・0	10・0
	津軽の野づら	深田久弥	1・2	10・0
	(計7冊)			
14・5				
	愛国者	内山俊雄	1・0	10・0
	海南島記	火野葦平	0・8	
	ラグーザ玉自叙伝	木村毅	2・5	10・0
	戦場の乙女	本間立也	1・8	10・0
	愛情の陰	芹沢光治良	1・7	10・0
	文化と風土	丸山誠次	0・6	8・0
	ふるさと紀行	竹越和夫	0・5	8・0
	岸田国士　第六回 双面神	岸田国士	並1・5 特2・5	
	(計8冊)			
14・6				
	決闘(上)	梅田寛	0・5	10・0
	支那游記	芥川竜之介	0・4	10・0
	俳諧師　續俳諧師	高濱虚子	0・5	8・0
	牧水歌論歌話集	若山牧水	0・5	8・0
	機械 他七篇	横光利一	0・4	10・0
	天地有情	土井晩翠	0・5	10・0
	芸術の限界　その他	佐藤正彰	0・2	10・0
	智慧の悲しみ	八杉貞利	0・3	10・0
	情熱	豊永喜之	0・3	10・0
	愛弟通信	国木田独歩	0・4	ナシ

	追撃	伊地知進	1・7	10・0
	続若い人	石坂洋次郎	1・0	五万迄一割二分五万以上一割五分
	後方の土	立野信之	1・5	10・0
	回教事情二ノ一	外ム省調査部	0・5	前回通リ
	ヴァガボンド通信	坂井米夫	2・0	10・0
	支那経済年報　十四年版	山口高商	3・7	10・0
	白描	明石海人	1・4	10・0
	ブッデンブロオク家の人々三	吉良良吉訳	0・4	8・0
	性と性格 上	村上啓夫訳	0・45	8・0
	死の勝利 上	原田謙次訳	0・5	8・0
	おらが春・一茶文集	萩原井泉水校訂	0・5	7・0
	(計11冊)			
14・3				
	古き支那新しき支那	村上知行	1・6	10・0
	先遣隊	徳永直	1・5	10・0
	朝鮮経済年報　十四年版	全国経済調査機関聯合会朝鮮支部	3・0	10・0
	再組織された英国の経済	市村今朝蔵	2・8	10・0
	荒鷲の母の日記	浜野修訳	1・6	10・0
	姑娘の父母	清水安三	1・3	10・0
	満洲移住読本	三浦悦郎	0・5	10・0
	カムチヤツカ紀行	中垣虎児郎訳	0・5	8・0
	世界文学第一巻アンクルトムスケビン	和気律次郎訳	0・8	6・0
	(計9冊)			
14・4				
	英国は没落する	大江専一	1・0	10・0

	土と兵隊	火野葦平	0・6	＊6
	忠烈詩集	団野宗勝		一五〇部
	(計10冊)			
13・12				
	俳句日記	高木蒼悟編	1・2	(一〇〇円)
	日本歴史人名辞典	日置昌一編	12・0	(前例)
	東亜聯盟論	宮崎正義	1・5	10・0
	支那事変歌集　戦地篇	日本歌人協会	2・8	
	回想記	高田保馬	1・5	10・0
	積雪	滝井孝作	1・8	10・0
	戦時日本貿易論	木村増太郎	2・2	10・0
	岸田国士長篇小説集全八巻		各1・5	10・0
	巴里の胃袋 上	武林無想庵訳	0・5	8・0
	(計９冊)			
14・1				
	満洲経済研究年報　十三年版	満鉄	2・5	六〇〇部
	改訂普及版　若い人	石坂洋次郎	1・0	五万迄一割二〜五万以上一割五〜
	巴里の胃袋 下	武林無想庵訳	0・4	8・0
	冬の日	萩原井泉水	0・3	8・0
	石川啄木	金田一京助	0・5	8・0
	社会学入門	本田喜代治　牧野巽訳	0・5	8・0
	ブッデンブロオク家の人々三	吉良良吉訳	0・4	8・0
	性と性格 上	村上啓夫訳	0・45	8・0
	(計８冊)			
14・2				

	歌集黒松	若山喜志子	2・7	10・0
	麦と兵隊	火野葦平	1・0	8・0
	母親	岡崎俊夫訳	1・3	10・0
	中華万華鏡	井上紅梅	1・8	10・0
	フアビアン 上	小松太郎訳	0・45	8・0
	平賀元義歌集	半田良平	0・6	8・0
	六号室・接吻	梅田寛訳	0・45	8・0
	仏蘭西家庭童話集 第四巻	長松英一訳	0・6	8・0
	(計8冊)			
13・10				
	鴬	伊藤永之介	1・8	10・0
	悲恋の為恭	藤森成吉	2・0	10・0
	馬仲英の逃亡	小野忍訳	1・3	10・0
	蒙古大観	善隣協会	7・0	10・0
	ルテツィア 第一部	土井義信訳	0・55	8・0
	ロシア文学講話 上	伊藤整訳	0・5	8・0
	ライン牧歌譜	浦上后三郎訳	0・4	8・0
	フアビアン 下	小松太郎訳	0・3	8・0
	(計8冊)			
13・11				
	黄塵	上田広	1・0	10・0
	一人行く旅	吉田絃二郎	1・0	10・0
	邊城	松枝茂夫訳	1・3	10・0
	回教事情　第一巻第三号		0・5	一一〇部
	キリスト	賀川豊彦	1・8	10・0
	短歌作法	窪田空穂	0・6	7・0
	工業分布論	江沢譲爾訳	0・4	8・0
	新生支那経営論	梨本祐平	1・6	10・0

	新怪談全集実話篇	田中貢太郎	1・7	10・0
	岡倉天心伝	清見陸郎	0・5	8・0
	紅玉（ルビー）	石中象治訳	0・25	8・0
	現代男	梅田寛訳	0・5	8・0
	断鴻零雁記	飯塚朗訳	0・4	8・0
	不用人の一生	上脇進訳	0・6	8・0
	新編石川啄木全集		1・3	＊5
	（計11冊）			
13・7				
	私の昆虫記	林芙美子	1・1	10・0
	新怪談集（物語篇）	田中貢太郎	1・7	10・0
	満洲帝国協和会指導要綱案	山口重次	0・8	無し
	上海漫語	内山完造	1・5	10・0
	上海の嵐	代表新庄嘉章訳	1・3	10・0
	支那歴史研究法	小長谷達吉訳	3・5	8・0
	（計６冊）			
13・8				
	ホトトギス雑詠選集（春の部）	高浜虚子	5・0	15・0
	バック　支那の農業	代表 仙波泰雄	6・5	10・0
	長江上流の若者	本間立也訳	1・3	10・0
	蒙古風土記	米内山庸夫	2・7	10・0
	回教事情 一ノ二	外務省調査部	0・5	契約書通前例
	美しき青春	植村敏夫訳	0・45	8・0
	風物帖	佐藤新一訳	0・5	8・0
	ペルシヤ人の手紙	斎田礼門訳	0・6	8・0
	（計８冊）			
13・9				

	(計7冊)			
13・4				
	釣の本	佐藤垢石	2・5	10・0
	国際読本ドイツ	外務省情報部	0・5	
	フランス　スペイン	同上	0・5	
	ソヴィエト	同上	0・5	
	南太平洋	同上	0・5	
	続支那漫談	村松梢風	1・6	10・0
	川端康成選集　全七冊		1・5	10・0
	ニーチェ芸術論抄(二)	井汲越次	0・4	8・0
	戦時経才講座		検印	三千五百従前ノ通リ
	(計9冊)			
13・5				
	支那と支那人と日本	杉山平助	2・2	10・0
	揚子江	須川博子訳	1・3	10・0
	第三代	小田獄夫訳	1・3	10・0
	回教事情 1ノ1	外務省調査部	0・5	壱00部贈呈
	サランボ 上	神部孝訳	0・45	8・0
	サランボ 下	同上	0・4	8・0
	ニーチェ伝 中	野上巖訳	0・4	8・0
	誘惑者の日記	神保光太郎訳	0・5	8・0
	ミルゴロド	平井肇訳	0・4	8・0
	(計9冊)			
13・6				
	回教事情	外ム省	0・5	壱百部贈呈
	不動産の評価の理論と実際	花島得二	6・0	10・0　＊3
	人物わしが国さ	伊藤金次郎訳	2・5	10・0
	周作人随筆集	松枝茂夫訳	2・3	1・2　＊4

『改造社印税率の記録』翻刻

凡例

＊以下は、『改造社印税率の記録』の翻刻である。ただし、厳密な翻刻が目的ではなく、印税率を中心とした正確な情報の提示を目的としたため、明らかに誤りであると判明した固有名（書誌名、人名等）は適宜正しく改めた。

＊また、見易さを優先し、本欄を縦書きから横書きに、印税率の表記を漢数字表記から算用数字表記に改めた（例、「一割」→「10・0」）。但し、欄外の書き込み等は、原則原本に即して表記した。

＊改造文庫であると判明したものは、書名を「太字」かつ「斜体」にした。

日付	書　　名	著 者 名	定価(円)	印税率(%)
13・2				
	国民経才学大系			10・0
	北伐			8・0
	支那読本			
	伊太利読本			
	中南米読本			
	可愛い女			8・0
	スピノザ			8・0
	ニーチエ伝			8・0
	ヂキル博士とハイド氏			8・0
	(計9冊)			
13・3				
	第一夫人	本間立也訳	1・2	8・0
	短歌年鑑	柳田新太郎	3・0	10・0
	満州読本	外務省情報部		＊1
	英吉利読本	同上		＊1
	亜米利加読本	同上		＊1
	法律哲学要綱(下)	田村実		8・0
	江戸城明渡	藤森成吉	2・2	10・0